

## 高松市温泉水審議会 会議記録

- 1 会議名 高松市温泉水審議会
- 2 開催日時 平成26年5月22日(木) 午前10時～
- 3 開催場所 高松市役所塩江支所 塩江コミュニティ協議会2階会議室
- 4 議題 (1) 会長の選任について  
(2) 温泉水の成分希薄化に伴う給水経路の変更について
- 5 出席委員 尾形委員、川田委員、熊野委員、塚田委員、藤澤英治委員、  
藤澤久文委員(会長)
- 6 傍聴者 なし
- 7 会議の経過及び結果
  - (1) 会長の選任について  
互選により藤澤久文委員が会長に選任され、規定により会長が会議の議長となった。
  - (2) 温泉水の成分希薄化に伴う給水経路の変更について  
事務局が対応(案)を説明した後、以下のとおり、質疑応答を経て承認された。  
**委員**  
この10月で2号泉は使えなくなるということか。  
**事務局**  
このままでは、奥の湯温泉2号泉を供給している温泉施設(魚虎旅館や行基の湯など)において温泉成分の掲示ができないので、温泉の基準を満たしている奥の湯温泉を供給することにより成分表示の更新をしてもらうということ。  
**委員**  
2号泉を更に深く掘るなどして、成分の十分なところを採ることはできないのか。  
**事務局**  
この案については、あくまでも暫定的なものであり、温泉ではないものを供給している現状をすみやかに解消するためのもの。将来的には、新たな源泉の確保が必要と考えており、2号泉の付近で井戸を掘り直してみる案や新規採掘する案についても検討している。  
**委員**  
阪神大震災の影響は考えられるか。  
**事務局**  
一因と考えられなくもないが、業者に確認すると因果関係は不明とのこと。  
**委員**  
奥の湯温泉の成分は、間違いないのか。

**事務局**

奥の湯温泉の成分については、基準を満たしている。

**委員**

ポンプの老朽化などの不安要素があるが、今後も問題はないか。問題ないと言ってほしい。

**事務局**

今の奥の湯温泉の使用量が続けば、井戸に負担がかかることから、将来的に影響がでないとは言い切れない。ゆえに循環型へ切り替えることで、使用量を減らし、源泉の延命を図っていくことができれば大丈夫であろうと考えている。

**委員**

奥の湯温泉の成分濃度が高いのであれば、2号泉と混ぜて使用することはできないのか。

**事務局**

混ぜることはできない。

混ぜることは温泉法上できないので、2号泉の供給はやめて、全施設を奥の湯温泉でまかなう必要がある。

**委員**

この資料を見ると、やはり奥の湯温泉（施設）での使用量がずば抜けている。

**事務局**

平成19年にレジオネラ菌が検出された際の保健所の指導により、気泡風呂を有する奥の湯温泉においては、毎日、浴槽のお湯を入れ換えることが義務付けられている。循環湯の使用が可能な他の施設と比べると使用量が必然的に多くなる。

**委員**

温泉配管の老朽化（特に橋の部分）についても、いつ事故が起きてもしようがない状況にある。計画的に考えてほしい。

**事務局**

状況については把握しており、過疎債を使って対応していきたいと考えている。奥の湯温泉（施設）の老朽化も進んでおり、昨年度、耐震診断も実施したところである。今後は、奥の湯温泉（施設）と源泉に加え、配管についても、総合的に対応を考えていく。

**委員**

資料の中で新温泉ホテルとあるのは、あの周辺の住宅向けに供給しているものか。

**事務局**

お見込みのとおり。

議長

他に意見がなければ、事務局（案）を承認することとしてよろしいか。

～ 一同承認 ～

(3) その他

以下のとおり質疑応答があった。

委員

奥の湯温泉の泉質をもっとアピールできないか。

事務局

奥の湯温泉の玄関のところで、源泉に触れることができるようにしている。

委員

物足りない。(源泉がある) あそこに足湯があればいいのでは。

事務局

施設のあり方については、耐震診断の結果も踏まえて検討してまいりたい。

委員

2号泉の成分問題は、パイプラインに原因があるのではないのか。

事務局

水質検査については、源泉のところで採水したもので検査しているので、そのようなことはない。

委員

2号泉の水量は、少ないのか。

事務局

そのようなことはない。

塩江温泉郷の賑わいのためには、新源泉採掘も選択肢の一つと考えている。

議長

一校のセミナーハウスのあたりに泉脈がある。

事務局

そういった情報も聞いている。